



故正三位勲二等男爵北里 柴三郎

叙勲ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和六年六月十五日

内閣總理大臣男爵若槻禮次郎



内

閣

賞勳局告示第一〇九號

内閣第二号

昭和六年六月十三日
昭和六年六月十五日

昭和六年六月十五日 内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

賞勳局總裁



故正三位勲二等男爵北里柴三郎儀ハ
我國醫界ノ耆宿ニシテ明治三十二年
大日本私立衛生會設立傳染病研究
所ノ國家經營ニ改メラル、ト共ニ所長
ト爲リ一面東京痘苗製造所長心得
血清藥院長心得ヲ命セラレ爾來傳
染病豫防竝治療方法ノ研究、痘苗
血清、製造方法等、指導監督ニ從事
シ大正三年該傳染病研究所、移管
ヲ機トシテ退官シ獨力ヲ以テ北里研究
所ヲ創立シ大正七年十月社團法人、
許可ヲ得テ痘苗、血清、製造研究ヲ
始メ細菌學的豫防治療品ノ研究等
專ラ傳染病、豫防撲滅ニ力ヲ注キ世
界屈指ノ大研究所タルノ名聲ヲ中外
ニ博シ今日ニ至ル尚此、間大正五年大
日本醫師會、創立セララルヤ之レカ長

賞勳局

トナリ超ヘテ大正十二年現行醫師會
令ニ基ク日本醫師會ノ長ト爲リ今
日ニ及フ其ノ間能ク四萬餘ノ醫師ヲ
統率シテ醫事衛生ノ發達ニカシ盡シ
殊ニ大正十五年健康保險法ノ實施
セラルルヤ政府ノ依囑ニ依リ其ノ最モ
難關トセラルル被保險者ノ醫療給付
ヲ擔當シテ事業ノ圓滿ナル施行ニ努
カス又大正九年ヨリ同十四年ニ至ル間
中央衛生會長トシテ醫事法制ノ審

議ニ携ハリ之レカ完備ニ貢獻スル所
尠カラス更ニ大正六年慶應義塾大
學醫學科ノ創設ト共ニ科長ト爲リ
同九年醫學部長ト改稱昭和三年
退職ニ至ル迄醫學教育ニ盡瘁セリ
其ノ他恩賜財團濟生會ノ醫務主管
トシテ救療事業實施ノ任ニ當リタル
等功績顯著者ニ候處本月十三日
死去セル趣ニ付此際特ニ同日附ヲ以テ
勲一等ニ叙シ旭日大綬章ヲ授ケラレ度

此段允裁ヲ仰ク

内閣

(裏面)

秘

内閣内勅令ニ号

内務省書秘第三〇號

特旨敍勳ノ件

敍勳一等授旭日大綬章

故貴族院議員正三位勳二等

男爵 北里 柴 三 郎

右者ハ我國醫界ノ老宿ニシテ夙ニ其ノ名世ニ知ラレタル所ナルカ明治三十二年大日本私立衛生會經營ニ係ル傳染病研究所ノ國家經營ニ改メラル、ト共ニ其ノ所長ト爲リ一面東京痘苗製造所長心得、血清藥院長心得ヲ命セラレ爾來傳染病豫防並治療方法ノ研究、痘苗、血清ノ製造方法等ノ指導監督ニ從事シタルガ大正三年前記傳染病研究所ノ内務省所管ヨリ文部省所管ニ移レルヲ機トシテ退官シ獨力ヲ以

内務省

テ北里研究所ヲ創立シ大正七年十月社團法人ノ許可ヲ得テ痘苗、血清ノ製造研究ヲ始メ細菌學的豫防治療品ノ研究等專ラ傳染病ノ豫防撲滅ニ力ヲ注キ世界屈指ノ大研究所タルノ名聲ヲ内外ニ博シ今日ニ至リタルモノナリ尙此間大正五年ニ開業醫ノ全部ヲ網羅セル大日本醫師會ノ創立セラル、ヤ其ノ長ト爲リ超ヘテ大正十二年現行醫師會令ニ基ク日本醫師會ノ長ト爲リ今日ニ及フ其ノ間能ク全國四萬餘ノ醫師ヲ統卒シテ醫事衛生ノ發達ニ力ヲ盡シ殊ニ大正十五年我國最初ノ社會保險事業タル健康保險法ノ實施セラルルヤ政府ノ依囑ニ依リ其ノ最モ難關トセラル、被保險者ノ醫療給付ヲ擔當シテ此ノ劃期的事業ノ滿ナル施行ニ努力セシ功績頗ル顯著ナルモノアリ又大正九年

ヨリ同十四年ニ至ル期間中央衛生會長トシテ結核豫防法、トラホー
ム豫防法、精神病院法ノ制定傳染病豫防法ノ改正等ノ審議ニ携ハリ
醫事法制ノ完備ニ貢獻スル所尠ナカラズ更ニ大正六年四月慶應義塾
大學醫學科ノ創立ト共ニ其ノ科長ト爲リ同九年二月大學令ニ依リ醫
學部長ト爲リ昭和三年四月退職シタルカ其ノ間卒業生ヲ出スコト四
百八十二人ニ達シ尙現在同學部ノ顧問トシテ醫學教育ニ盡粹シツ、
アリ其ノ他恩賜財團濟生會ノ醫務主管トシテ救療事業實施ノ任ニ當
ル等醫事衛生ニ關スル各種團體ノ長ト爲リ現ニ貴族院議員、學術研
究會議員、鐵道省顧問、都市計畫中央委員會委員、勞働保險調査會
委員、帝國學士院會員等トナリ醫學教育並ニ醫事衛生ノ發達改善ニ

内務省

關スル功績洵ニ顯著ナルモノト被認候處同人儀本月十三日死亡候ニ
付テハ此際頭書ノ通り敘勳ノ御詮議相成候様致度

昭和六年六月十三日

内務大臣 安達謙藏



内閣總理大臣 男爵 若槻禮次郎殿

事績調書

北里柴三郎

(一) 私立傳染病研究所長トシテ

明治二十五年獨逸國留學ノ事ヲ終リ歸朝スルヤ大日本
 私立衛生會頭ノ委託ヲ受ケテ同會傳染病研究所
 ヲ開始シ本邦ニ於ケル細菌學及傳染病學ノ研究ノ端
 緒ヲ啓キタリ之ヨリ先キ同二十三年內務省留學期間
 將サニ滿タントスルヤ豫テ作業中ニ係ル肺病治療法ノ研究ヲ
 繼續スル能ハサルヲ遺憾トシ大日本私立衛生會頭ヲ宮内
 大臣ニ出願シタル結果特旨ヲ以テ學子資金壹千圓ヲ下賜セ
 ラル、ノ思心命ニ浴セリ

右ノ私立傳染病研究所ハ最初福澤諭吉氏ノ百子ヲ思ニ成
 レル芝区芝公園内ノ一家屋ニ於テ事業ニ着手シタリシガ
 幾バクモナク同区愛宕町二丁目內務省用地ニ研究室及病室
 ヲ建設セントスルニ方リ芝区民中ノ一部ニ之ヲ喜ハサルモノアリ工事
 ノ妨碍ヲナス等種々ノ支障ヲ來シタリシカ同二十七年其竣功ヲ
 告ケ着々業績ヲ擧ケタルニ及ヒ夫等正民モ却テ之ヲ厚ク遇ス
 ルニ至リタリ而シテ政府モ其設立以來年ニ若干ノ補助費ヲ
 交付スル所アリシカ其效果愈々顯著トナルヤ寧ロ之ヲ國家
 事業トシテ經營スヘキノ議アリ同三十二年四月以降國立ト
 シテ內務省所管ノ下ニ其規模ヲ擴張シ同三十八年從來別
 ニ經營シ居タル血清藥院及痘苗製造所ヲ合併シテ
 其領域益々宏大トナリ新タニ芝区白金吉室町ニ移轉改築
 シテ愈々世界ノ屈指ノ大研究所タル名アルニ至リシカ大正三
 年十月時ノ内閣ハ

之ヲ内務省ヨリ文部省ニ移管シ
更ニ東京帝国大学ニ隷属セシメントスルニ及ヒ断然傳染病研
究所長ノ官職ヲ辞シ多年拮据經營ノ舊地ヲ去リタリ

(二) 北里研究所長トシテ

決然其官職ヲ棄テ、在野ノ一學徒トナルヤ直ニ純然タル和ミ
北里研究所ヲ興スコト、レ大正三年十一月廿三白金三芝町ニ
其ノエヲ起シ翌四年十一月竣功ヲ告クルヲ得タリ而シテ其基
礎漸ク鞏固トナルニ及ヒ同七年十月同所ノ財産一切ヲ寧
付シテ社團法人トナシ部下ノ功勞者ヲ社員トシテ引續キ
自ラ其所長トナリ益々其復興ニ努メタル結果今ヤ其學業
ノ成績及血清痘苗其他豫防治療品製造等共ニ旧
研究所ヲ凌駕スルノ盛況ヲ呈シ国家社會ニ貢獻スル所
愈々多ナルニ至リタリ

(三) 大日本私立衛生會頭及日本結核豫防協會理事長トシテ

明治十六年二月大日本私立衛生會ノ創設以來同會役員
トシテ一般衛生思想ノ普及及癸達ニ努メタル所多ク現ニ其
會頭タリ又結核病ノ豫防撲滅ヲ目的トシテ設立セラレタル
日本結核豫防協會理事長タルコト十数年同會ニ盡ストコロ亦
甚タ多シ

(四) 恩賜 濟生會醫務主管トシテ

明治四十四年二月内閣總理大臣ニ賜ハリタル勅語ノ旨ヲ奉
テ恩賜 濟生會ノ設立セラルヤ評議員ヲ囑託セラレ尚
醫務主管トシテ専ラ救療事業ヲ安實施ノ任ニ當リ近
時特ニ同會事業ノ活動ヲ促カレワ、リ

(五) 應應義塾大学醫歯学部部長トシテ

大正五年八月慶應義塾大學部ニ醫學科設立ノ計

畫アルヤ進ニデ其與手ヲ焚具シ現ニ同医学部長トシテ同部去月
英ノ事業ヲ引受ケ兼テ医学部附属病院長タリ同部
ノ名産爲メニ頓ニ顕ハル昭和三年五月同部長及病院長
ヲ辞シ同部顧問ヲ依頼セラル

(六) 日本醫師會會長トシテ

日本醫師會ハ本邦内地ニ於ケル医学衛生ノ改良發達ヲ
図ルヲ目的トシ医師法ノ規定ニ依リ大正十二年十月設之
セウレ道府縣医師會ヲ統率スルモノナルカニ選ハレテ其
會長トナレリ蓋シ同會ノ前身ハ大日本医師會ニシテ多年
同會ニ長トシテ盡瘁スル所アリタルカ爲メ同會解散
法定日本医師會設立ノ事アルニ及ヒ衆望ノ茲ニ帰セル
國ヨリ当然ト謂フヘキナリ

(七) 其他

上記ノ外公共公益ノ事業ニ于其ニタリモノ及現ニ于與シツ、
アルモノ數種アリト虽モ煩ヲ辭スルカ爲メ今之ヲ畧ス

(八) 研究事業ニ関スルモノ

細菌学及傳染病学上ニ於ケル各種ノ研究並ニ安貝布
埜里亞其他ノ血清、疫苗類製造ニ関スル業績素ヨリ
多シト虽トモ今其顯著ニシテ世ニ公ニセラルタルモノ三十八種ノ
多キニ及ベリ

位勳爵 博士	府縣族籍	生年月日	原籍	現住所	年號月日	任	免	賞	罰	事故	官衙
北里 柴 三 郎		嘉永五年十二月二十日	東京府東京市麻布區仲ノ町十九番地								官衙
名氏	名氏										
履歴用紙	内務省	二四、一四	休職申付								官内省
八二三	醫學博士ノ學位ヲ授ク										文部省
一〇	留學年期滿限後其歸途佛英伊及米ノ四ヶ國ヲ 巡視シ衛生事業ヲ取調フヘシ										内務省
二五、三一	休職滿期										・
五 一	學術上ノ功績ニ對シ「プロフェッフル」ノ稱ヲ授ク										普國政府
五二八	歸朝										・
七 五	中央衛生會委員ヲ命ス										内閣
一、一九	任内務技師衛生局勤務										内務省
一、三〇	大日本私立衛生會ノ委嘱ニヨリ同會設立傳染 病研究所長トナル										
一三、二九	敘勳三等授瑞寶章										賞勳局
二六	今上陛下皇太子殿下ニアラセラル御不例ノ節 高輪御殿ニ於テ拜診仰付ラレ其後引續キ數々御略										

二七	一	授及御便ノ検査ヲ仰付ラル	
	五、一四	宮中衛生御設備ニ關シ實地指導ヲ命セラル	
	本年九月	牙利國ブタベストニ於テ衛生及デモ	
	グラフキー第八回萬國會議開設ニ付特別委員被仰付	内閣	
	五、二八	香港ニ於テ流行スル傳染病調査ノ爲メ派遣被仰付	
	一〇、一三	賜旭日中綬章	賞勳局
	一三、二七	依願免本官	内閣
二八		伊國衛生學會名譽會員ニ推選セラル	
二九	六、三〇	血清藥院顧問被仰付	内閣
三一		西國カタルニ一衛生院名譽會員ニ推選セラル	
三二	三、三一	大日本私立衛生會設立傳染病研究所長ヲ辭ス	
	四、五	任傳染病研究所長	内閣
		敘高等官二等	
	四、一一	痘苗製造所顧問被仰付	
履歷用紙			
	五、二〇	敘正五位	宮内省
	八、七	東京痘苗製造所長心得ヲ命ス	内務省
		露國軍醫大學名譽役員ニ推選セラル	
三三	六、一五	臨時檢疫局委員被仰付	内閣
	九、二四	臨時檢疫局官制廢止	
三五	四、一	血清藥院長心得ヲ命ス	内務省
	二、五	兼任痘苗製造所技師	内閣
	同日	痘苗製造所顧問被免	
	一、三、八	補痘苗製造所長	内務省
		國際結核病豫防協會名譽會員ニ推選セラル	
三六		マニラ醫學會名譽會員ニ推選セラレ米國熱帶病學會名譽會員ニ推選セラル	
三七	六、一〇	敘從四位	宮内省
	七、六	御用有之米國へ被差遣	内閣

		紐育醫學會名譽會員ニ推選セラル	
		倫敦ハルヴェー學會名譽會員ニ推選セラル	
		倫敦疫癘學會名譽會員ニ推選セラル	
		セントルイス科學協會名譽會員ニ推選セラル	
三八三、三一		血清藥院痘苗製造所官制廢止	
六二七		警視廳防疫評議員被仰付	内閣
三九四、一		敘勳二等授瑞寶章	賞勳局
		明治三十七八年事件ノ功ニ依リ勳二等瑞寶章及金千圓ヲ授ケ賜フ	
九一四		帝國學士院規程第二條ニ依リ勅旨ヲ以テ帝國學士院會員被仰付	内閣
四〇六、一四		東京市區改正臨時委員被仰付	同
		倫敦皇立内外科學會名譽會員ニ推選セラル	
四一六、二三		臨時脚氣病調査會臨時委員仰付	内閣
履 歷 用 紙			
内 務 省			
		英國皇立學士院會員ニ推選セラル	
四二六、一一		御用有之諾威國及洪牙利國へ被差遣	内閣
六二一		敘正四位	宮内省
八二〇		普魯西國皇帝陛下ヨリ贈與シタル星章赤鷲第二等勳章ヲ受領シ及佩用スルヲ允許セラル	賞勳局
四三一、二四		諸威國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「サンオラフ」第二等甲級勳章ヲ受領シ及佩用スルヲ允許セラル	
		柏林醫學會名譽會員ニ推選セラル	
四四三、七		滿洲ニ於ケル百斯篤豫防狀況視察事務ヲ囑託ス	内閣
		滿洲ニ出張ヲ命ス	内務省
三二一		臨時防疫事務ヲ囑託ス	内閣
三一五		陸軍高等官一等	
三一七		御用有之清國へ被差遣	
		清國奉天ニ於テ疫病研究會議開催ニ付參列被仰付	

四二八	鐵道院衛生顧問ヲ命ス	鐵道院
八二二	恩賜濟生會評議員ヲ囑託ス	濟生會
八二五	滿洲ニ發生シタルペスト病毒防遏ニ關シ盡力不	賞勳局
	抄依テ金杯一組ヲ賜フ	
九	九 醫務主管ヲ囑託ス	濟生會
大正	五 一四 佛蘭西共和國政府ヨリ贈與シタル「コンマンドル	總裁
	ドロールシ、ナシヨナル、ド、ラ、レジヨン、	
	ドノール」勳章ヲ受領シ及 佩用スルヲ允許セラル	賞勳局
	七一〇 敘從三位	宮内省
	一一五 依願免本官	内閣
	同日 北里研究所ヲ設立シ同所長トナル	
	一一三〇 敘正三位	宮内省
四	一〇三一 恩賜濟生會病院長ニ囑任ス	濟生會
六	四 慶應義塾大學醫學部長ヲ委囑セラル	總裁
履 歷 用 紙		
内 務 省		
一三二六	貴族院令第一條第四項ニ依リ貴族院議員ニ任ス	内閣
七	五一四 中央衛生會委員被仰付	同
	六二九 都市計畫調查會臨時委員被仰付	同
一〇	五 社團法人北里研究所設立ニ付同社員トナリ理事	
	ニ選任同所長ニ互選セラル	
八一〇	四 都市計畫調查會委員被仰付	内閣
一〇二五	授旭日章	賞勳局
九	五一五 顧問ヲ命ス	鐵道省
	六 一 一 多年中央衛生會委員ノ職ヲ奉シ盡力抄カラス依	賞勳局
	テ金杯一組ヲ賜フ	
	六一二 中央衛生會々長被仰付	内閣
	七一 一 都市計畫中央委員會委員被仰付	同
	一一一八 總督府衛生顧問ヲ囑託ス	朝鮮總督府
	一一二五 學術研究會議會員被仰付	内閣

	一三、一	大正四年乃至九年事件ノ功ニ依リ銀杯一組ヲ賜フ	賞勳局
	一〇三、三一	社團法人北里研究所理事所長ノ任長ノ任期間了ノ處何レモ再選セラル	
	一三、一〇	勞働保險調査會委員被仰付	内閣
	一一九、一六	教育評議會委員被仰付	
	一二九、八	極東熱帯醫學會會頭ニ選舉セラル	
	一、二五	醫師會令ニヨリ創設セラレタル日本醫師會長ニ推選セラル	
	一三三、一一	依勳功特授男爵	
	三、三一	社團法人北里研究所理事所長任期間了ノ處被選重任ス	
	四、二	帝國經濟會議員被仰付	内閣
	一四六、二四	官制改正ニ依リ自然消滅（中央衛生會會長）	
	一五一、二六	獨逸帝國自然科學會員ニ推薦セラル	
昭和 三、五	一、一〇	慶應義塾大學醫學部長依頼免セラル顧問トナル	内務省
	六、一六	大禮記念章授與セラル	
		八十歳ノ高齢ニ付御紋付銀盃一組並酒肴料ヲ下賜セラル	